

## みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	西公園プレーパークの会	
代表者名	佐藤慎也	
連絡先 鶴岡 彩	TEL : 080-5228-2806 FAX : 022-242-3239	E-mail <a href="mailto:lemondrop@lapis.plala.or.jp">lemondrop@lapis.plala.or.jp</a>

## 1、助成事業報告

助成を受けた事業名	冊子「プレーパークってなんだろう (仮題)」の制作、および冊子を活用した外遊びの普及事業
事業の目的	<p>&lt;外遊びの大切さと、外遊びができる環境の作り方を伝えたい&gt;</p> <p>近年、地域の公園に禁止事項が多い、小学生が習い事や塾通い等で忙しい、ゲーム機などで遊ぶ機会が多く自由な外遊びに慣れていない、などの理由から積極的に外遊びをしない子どもが増えている。また、子育て中の保護者も乳幼児を外で遊ばせることが減っている。</p> <p>一方で当会は活動を通して、外遊びを積み重ねることで子どもが心身を成長させる姿や、プレーパークで人との関わりを深めることで安心感や自信を得て日々を生き生きと過ごす姿を多く見てきた。子どもには自ら遊びを作り出す力があるが、近年の環境においては、その力を存分に発揮するために大人が「場」を作る必要性を強く感じている。</p> <p>そこで、「遊び」や「遊べる環境」の大切さ、その環境の作り方を多くの大人に伝える冊子の制作を企画した。遊びの大切さを認識する大人が増えることで、子どもが生き生きと遊べる環境が広がることを目指す。</p>
事業の具体的内容	<p>1. 冊子「プレーパーク解体新書」の制作</p> <p>仙台市青葉区にある西公園で15年活動を続けてきた西公園プレーパークのノウハウと活動への思い、関係者インタビュー等を盛り込んだ冊子を制作。外遊びが子ど</p>

	<p>もの成長にとって欠かせないものであると考える理由、スタッフが15年の間に経験したこと、プレーパーク作りのノウハウや準備するといったもの、プレーリーダーとはどのような存在か、などを、写真やイラストを交え分かりやすく解説した。プレーパークを作りたい人や興味のある人、子どもの遊び場を運営している人、スタッフの研修用に使いたい人、協力企業や行政担当者にプレーパークの必要性を説明したい人などに活用いただくことを目的とした。</p> <p><b>2. 冊子を活用した外遊びの普及活動</b></p> <p>2月20日に当会主催の「西公園パークマネジメント報告会」を開催（参加10団体・機関）し、西公園に関わって活動する団体や教育機関、行政担当者らに冊子を配布および解説を行った。「スタッフと一緒にじっくり読みます」「これから活動を始める団体に渡したい」などの反応があった。</p> <p>現在、SNS等を通じて発信し、依頼のある全国の個人・団体へ配布中。</p>
<p>活動の開始から完了までの流れ</p>	<p>2018年</p> <p>7月 制作構想開始（2019年12月完成目標）  デザイナー、イラストレーター選定  ページ割り、内容、体裁等検討  予算立て</p> <p>2019年</p> <p>2月 制作スタッフ確定  デザイナー、イラストレーター正式依頼  内容を深める</p> <p>6月 第1回 制作会議  主旨、体裁、ページ数の概要を決定</p> <p>7月 第2、3回 制作会議  内容の深掘りを進める</p> <p>※みやぎ生協福祉活動助成金申請、採択</p> <p>8～12月 制作作業  インタビュー、原稿執筆、写真撮影、イラスト制作</p> <p>12月 第4回 制作会議  入稿までのスケジュール確定</p> <p>12～2020年1月 制作作業  レイアウト、校正、修正</p> <p>1月 第5回 制作会議  グラチェック、最終校正、修正  入稿</p>

	<p>2月20日 完成、納品 配布</p>
<p>活動の成果と教訓</p>	<p><b>成果</b></p> <p>1. 子どもの外遊びの大切さ、外遊びの環境作りのノウハウを分かりやすく伝えるツールを、当会として初めて制作できた。</p> <p>2. 地元紙に記事として取り上げてもらえたことで多くの人の目に留まり、宮城県内各地の他、東京や大阪、岐阜、長野、広島など全国から問い合わせがあり送付することができた。(河北新報3月23日朝刊)</p> <p>また、仙台市市民活動サポートセンター入り口に置いていただき、仙台市民にも広く届けることができた。</p> <p>※いただいた感想の一部</p> <p>「こんなふうにプレーパークができてきてんだなあと、発見や謎解きがありました」</p> <p>「頑張っている地域の方々にも配りたい」</p> <p>「今はまだ活動していない1歳児の親ですが、プレーパークや森のようちえんの活動や考え方にすごく共感しています」</p> <p>3. 同じ思いで子ども・子育て支援の活動をする個人・団体をサポートしたり、連携を持ったりするためのきっかけのツールになった。</p> <p><b>教訓</b></p> <p>1. 制作方法について：より多くの人に制作に参加してもらいたかったが、初めはどうすればいいか分からなかった。携わる19人全員でのミーティングは行わず、3人のコアメンバーが密に連絡を取り合い役割分担する方法が、結果的にうまく機能したので教訓としたい。</p> <p>2. 費用について：資金不足による苦肉の策ではあったが、完成品の郵送を希望する人には送料の負担をお願いした。結果的に、同時に寄付のお願いがしやすくなるなどメリットも感じられた。</p>
<p>今後の展望など</p>	<p>SNS等で全国のプレーパーク関係者や子ども・子育て支援者に発信したり、当会スタッフが講演する機会に紹介したりして、まずは冊子を多くの人に手に取ってもらう。冊子という目に見えるツールがあることで、これまでプレーパークに関心のなかった人の目に触れることも期待できる。</p> <p>冊子を通して関心を持ってくれた人からの相談に応じる、依頼があれば研修を実施するなど、子どもの遊び環</p>

	境に関するスキルを伝える活動を広げたいと考えている。
--	----------------------------

## 2、助成金使途報告書

### ■ 収入の部

確保した資金内容	金額 (円)	備考
福祉活動助成金	200,000	
自己資金	42,687	
合計	242,687	

### ■ 支出の部

費目	内容	予算額 (円)	実支出額
謝金	デザイン担当	100,000	100,000
	イラスト担当	50,000	20,000
交通費	打ち合わせ時のガソリン・高速代、駐車場代	15,000	9,972
印刷費	1000部(プリンパ)	150,000	106,835
消耗品	プリンターインク代、コピー用紙、封筒代	25,000	0
送料		70,000	5,880
会場費		8,000	0
合計		418,000	242,687

\*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

## 3、送付必要書類

### ① 福祉活動助成金 助成活動報告書

プリントアウトしたものを1部郵送、データもメールでお送りください。

### ② 領収書のコピー (郵送)

### ③ 成果物 (活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送)

\*写真は郵送とメールで送ってください。

# 仙台 外遊び子どももの成長促す

## 「西公園プレーパークの会」記念誌発行

仙台市青葉区の西公園で、子どもの遊び場を常設する「西公園プレーパークの会」が、本格的に活動を始めてから15年たったのを記念し、冊子



西公園プレーパークの会が発行した「プレイパーク解体新書」

「プレイパーク解体新書」を作った。これまでの歩みを振り返り、自然の中で五感をフル回転して外遊びすることの意義や、家でも学校でもない子どもの「第三の居場所」としての機能について分かりやすく紹介する。

プレイパークは、土や木に触れ、水や火を使うなど、子どもが自分のやりたいことに挑戦する中で成長できる遊び場。同会は、プレイヤーと呼ばれる大人のスタッフを常駐させ、2005年から年間1〜7.5日開催を始め、翌06年から18年200日開催を続けている。18年に仙台市の公園施設設置(管理)許可を得て、体験学習施設の位置付けで遊び

## 「第三の居場所」担う 活動15年 意義を発信

場を管理、運営している。記念誌では、バスケットゴールやブランコ、虫捕りができる原っぱ、相撲場など、敷地内に設けた遊び場や遊具道具を紹介。プレーパークの1日の流れを図解入りで説明する。活動を始めたスタッフのフリートークも掲載する。さまざまな人が足を運ぶ公園での遊び場づくりを通じて、子育て中の母親や地域住民らとのつながりが生まれ、親でも教師でもない「第三の大人」が活動を支え、子どもの成長を見守るようになった経緯とその意義を熱く伝える。

利用した子どもの声も盛り込んだ。小学1年の頃から通い続け、中学時代、不登校になった時期もプレーパークには通い続けたという男子学生は「平日の朝から来ても、スタッフやお母さんたちが何も変わらず接してくれて楽しかった」と振り返る。プレイヤーの佐々木啓子さん(43)は「子どもが外で育つことは、体や心の成長にとって大切。子どもが足で行ける場所にプレーパークがつけられていくようになる」と話す。記念誌を参考にしてみたい、子どもが屋外で元気に遊べる場所が増えることを期待している。

記念誌はB5判、全28ページ。仙台市市民活動サポートセンター(青葉区)に設置、無料配布している。希望者には郵送する(送料は希望者負担)。申し込みはnishikouen.playpark@gmail.com。問い合わせ先は0000-7562-6154。

メモ 西公園プレーパークの開催日は、月、水曜、第2、4土曜だが、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため小中高校が臨時休校し、ボランティアで活動を支える母親らが対応できなくなった。このため現在は活動を休止しているが、敷地内には自由に出入りでき、砂場道具やボールなどの遊び道具を使えるようになっている。



西公園プレーパーク  
15周年記念誌

# プレーパーク 解体新書

西公園プレーパークの会

1

# プレパークって なんのため?

遊びはいつも子どものそばにあり  
ます。子どもは遊びを生み出す  
力があって、子ども、例えばイ  
ス一つのスペースさえあればくら  
でも遊べます。公園に行かなくや  
なんことはないし、家の中だっ  
て十分。でも、それならば私た  
らはなぜ15年以上プレパークを  
続けているのだろう。振り返って  
考えると、「外遊び」「プレパーク」  
の意味が見えてきました。



## 1. なぜ「外遊び」か

**五感が勝手にフル回転**  
まず何よりも、自然に触られる  
こと。草花や木、水、土、風。触  
れば柔らかい、硬い、トゲトゲ、ふ  
わふわ…あらゆる感覚を簡単に体感  
できます。これらを全部作れば膨大  
な制作費と時間がかかるけれど、自  
然の中にははじめからすべてがあ  
るのです。

一歩外に出れば、日の光があり風  
が吹き季節の匂いがする。同じ風景  
は一瞬たりともありません。その瞬  
間の空気を肌で感じて歩くだけで五  
感が自動的にフル回転、それはすべ  
に「遊び」です。都会の遠端にも自  
然を見つけるところはできるだけです。

### 「想定外」が心と体を作る

外での遊びは「思い通りにならな  
いこと」の連続です。急に雨が降る、

風が吹く、穴が開いている、地面が  
凸凹だ、木の葉が落ちてくる、大  
きな音がある、ボールが飛んでくる、  
生き物に遭遇する…

小さな「想定外」に出合うたび子  
どもは対処する動きを体得し、そ  
れらを積み重ねることによって「少々のこ  
とに動じない」心と体を作っていきます。  
自然と体の動きも俊敏で柔ら  
かくなります。始めはギクシャクし  
た動きだった子の運動神経や反射神  
経がどんどん発達していくのを、プ  
レパークのスタッフは実際に目の当  
たりにしています。

### 「変える」ことで遊びを深める

遊びを豊かにする要素の一つは「変  
えられること」、つまり壊したり作ら  
たり、変化させたりしやすいもの。  
自然は形を変えられるものに満ちて  
います。もう一つは、子どもの持つ  
「イメージの力」。例えば一本の小枝  
が、子どもにかかれば包丁にも剣に  
も、魔法のスニャックにも。シンプ  
ルなものほど、よりイメージをふく  
ませられます。子どもは「形を変



えやすいもの」と「イメージの力」  
を掛け合わせて、大人が想像もつ  
かない広い世界で心を遊ばせるこ  
とができます。

### 人生のはじめに自由な遊びを！

「人生のはじめの時期に自由に遊  
び、自ら生み出したり周りの世界を  
変化させたりした経験が『自分』を  
作っていくと、当会のプレリー  
ダーは話します。重要な点は、そ  
れが大人から与えられたものではな  
いということ。子どもが自ら手に入  
れ、自分で変化させられるものが、  
外遊びの環境にはたくさんありま  
す。

自らつかんだ体験は自分の土台と  
なっていく。うまくいったり失敗し  
たりする繰り返しが人としての厚み  
を作り、経験が自信となっていく。

そういった「土台」は、後に学校  
などで受ける「学び」を生かすため  
のベースとなります。効率のいい方  
法論を習うだけでは自ら作り出せる  
ようにはなりません。土台があつて

こそ方法論なのです。

このような外遊びは、近所のお散  
歩でも、公園や河川敷でもできま  
すね。では、プレパークって何  
のためにあるのでしょうか。

## 2. なぜ「プレパーク」か 人と人の多様な関わり

もっとも大きな要素は「人」です。  
プレリーダーはプレパークのシン  
ボルの存在ですが、西公園プレ  
パークには他にも運営を支える大人  
がいます。子育て中の母親や地域住  
民、学生、仕事を持つ社会人など  
属性はさまざま。「こまきませ」な  
人たちは、子どもから見た立ち位置  
や距離感もいろいろで、多様な関係  
性が生まれます。親でも教師でもな  
い「第三の大人」は、多彩な価値  
観や、地域にとまらない広い世界  
を示してくれます。

私たちが大切にするのは「子ども  
の言動を信じて見守る」こと。子ど  
もはやりたいことや挑戦を見守つて  
もらなことで、自分を肯定的に認  
めることができ、失敗しても次へ進

むことができます。  
多様であるとともに「継続的な関  
係」を結ぶことも、プレパーク  
の得意です。いつも遊びや時間を共  
有する大人に、子どもは安心感を  
抱きます。その安心感は子どもの日  
常を支えるだけでなく、必要な時  
には一歩踏み込んだ関係を作れるこ  
とになります。

自分を一人の人間として見てくれ  
る大人と出会い、信頼感を育む経  
験を持つことで、中高生になつて大  
人を信じることができると、私た  
ちは考えています。またさまざま  
シーンで「助けられた経験」は、将  
来誰かを助けたり、必要な時に助け  
を求めることができたりという行動  
につながるでしょう。

